一声に遠山青し時鳥（黒川）

兼載は、故郷において、会津の生んだ大文学者として、芦名領主だけではなく、重臣の間でも手厚くもてなされました。兼載もまた、会津の人々に連歌を指導するだけでなく、自分が各地で学んできた源氏物語などの古典の学問を、故郷の人々に教えたりしました。

墳桜

兼載は、会津にいた間にも、何度か関東に旅をしています。文亀二年（一五〇二年）といえば、兼載が会津入りをした年ですが、その年には先輩の宗祇がなくなったという知らせをうけて、箱根の湯本に出かけました。宗祇は八十二年の一生を、旅の途中で終えたのです。